

〔浅草 神谷バー〕

「今では今も、

時間がゆっくり流れている。

浅草を見守り続ける
日本でいちばん古いバー！

一八八〇年の創業以来、いつの時代にあっても気取りのない下町の社交場として、浅草とともに歩んできた「神谷バー」。その五代目である神谷直彌社長を今回は訪



かなどと呼ばれ、舶来のハイカフ品と人々の関心を集めていたという。デンキブランのブランは、カクテルのベースになっているブランデーのブラン。そのたいそう強いお酒が、電気とイメージがダブって、大変な人気であったという。大正時代は、浅草

問した。

神谷バー
たとえば「デンキブラン」と名付けられたカクテルがあまりにも有名である。電気がめずらしい明治の頃、目新しいものには、何でも電気なんと



六区(ロック)で活動写真を見終わるとその興奮を胸に一杯十銭のデンキブランを一杯、一杯。それが庶民にとって最高の楽しみだった。また、社交場として多くの文豪たちにも愛されていた。大正初期の、二十代だった萩原朔太郎は、一人グラスを傾ける神谷バーでの心情を歌に詠んでいる。昭和三十五年の三浦哲郎の小説「忍ぶ川」の作中にも登場する。



デンキブランは、百年を超える歲月を通じて、浅草の移り変わりをじっと見てきたのだろう。「デンキブランは下町の人生模様そのものです」と神谷社長は語る。

そして現在、会社帰りの人たちや女性グループなど幅広い人々が小さなグラスを片手に笑い、喋り、一日の終わりを心ゆ

くまで楽しんでいるという。1階はデンキブランに代表される酒場であるが、2階は手作り洋風料理の「レストランカミヤ」。3階は静かで落ち着いた雰囲気のと風情「ストラン」割烹神谷がある。家族や友人同士で一度は訪ねたい貴重なお店だ。「老舗として変わらない努力をしつつ、進歩もしていくことが大事である」と神谷社長。そんな老舗のお店が選んだ浄水器は、マルチピュア浄水システム。建物が古いので水の管理がむずかしく大変。安心と美味しさでマルチピュアは、調理場の水の要望に応えてくれると、神谷社長は語ってくれた。



神谷バー

東京都台東区浅草1-1-1 TEL.03-3841-5400

【営業時間】AM11:30~PM10:00(ラストオーダー PM9:30)火曜定休
(3F割烹は平日:正午開店、PM2:00~PM4:00は休業)

【交通】東京メトロ・銀座線:浅草駅下車 3番出口
都営地下鉄・浅草線:浅草駅下車 A5番出口
東武本線・伊勢崎線:浅草駅下車 正面出口 いずれも徒歩1~2分

写真:神谷社長